

2-2 国語学

研究・教育活動の概要と特色

国語学専攻分野は、文学部発足当初からの長い伝統を有し、国語学の領域全般に亘って研究と教育を続けてきました。特に、国語史学と方言学については、歴代の主任教授の方針を受け継ぎ、堅実な資料収集と分析に基づいた着実な研究成果を積み重ねるとともに、学生の指導と後継者の養成に精進してきました。それに加え、最近では、現代語研究の分野においても、研究・教育に一定の成果を上げるようになってきました。

国語史学については、特に語彙の研究に特色が見られ、研究対象・目的を、従来の語史の記述から語彙史の記述へとレベルアップさせるとともに、それに見合った方法論の開発に努めています。方言学については、地の利を活かし、東北方言を中心に分析と記述を長年行なってきましたが、最近では、「東北方言研究センター」を立ち上げ、社会と関係した研究を展開しています。なお、毎年、授業の一環として方言調査を行っており、フィールドワークの技術開発や指導にも力を注いでいます。現代語研究は、留学生の増加を背景とし、現代語文法を中心に、対照研究をも視野に入れつつ研究・指導を行なっています。

本専攻分野では、各教員が自らの研究の進展を踏まえつつ責任を持って個別に学生を指導するとともに、大学院演習や研究会など、教員・学生が専門の枠を越えて互いに啓発し合う場を確保することを通して研究・指導を行なうことをモットーとしています。

I 組織

1 教員数 (2015年5月20日現在)

教授：2

准教授：2

講師：0

助教：0

教授：斎藤倫明 小林隆

准教授：大木一夫 甲田直美

2 在学生数 (2015年5月20日現在)

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
46	5	12	17	1

3 修了生・卒業生数 (2010～2014年度)

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
10	10	6	2
11	14	6	7
12	12	5	3
13	9	7	1
14	7	8	4
計	52	32	17

II 過去5年間の組織としての研究・教育活動 (2010～2014年度)

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
10	3	0	3
11	6	1	7
12	6	1	7
13	1	0	1
14	3	1	4
計	19	3	22

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

鳴海伸一、2010年度、『漢語の国語化と副詞化』、

審査委員：教授・斎藤倫明（主査）、教授・小林隆、教授・千種眞一、
准教授・大木一夫、准教授・甲田直美

中西太郎、2010年度、『待遇的観点から見た日本語あいさつ表現の研究』、

審査委員：教授・小林隆（主査）、教授・斎藤倫明、教授・才田いづ
み、准教授・大木一夫、准教授・甲田直美

山本志帆子、2010年度、『近世武家社会における待遇表現体系の研究－『桑名日
記』にみる桑名藩下級武士を中心として－』

審査委員：教授・小林隆（主査）、教授・斎藤倫明、教授・後藤斉、

- 准教授・大木一夫、准教授・甲田直美
佐藤高司、2011年度、『群馬県方言の社会言語学的研究－30年間の若年層における方言使用の動態－』
審査委員：教授・小林隆（主査）、教授・斎藤倫明、教授・千種眞一
准教授・大木一夫、准教授・甲田直美
金殿模、2011年度、『現代日本語における授受表現の研究－『てもらう』文と『てくれる』文を中心として－』
審査委員：教授・斎藤倫明（主査）、教授・小林隆、教授・才田いずみ、准教授・大木一夫、准教授・甲田直美
田附敏尚、2011年度、『青森県方言における文末形式の研究』
審査委員：教授・小林隆（主査）、教授・斎藤倫明、准教授・大木一夫、准教授・甲田直美、准教授・名嶋義直
川越めぐみ、2011年度、『東北方言オノマトペの形態と意味』
審査委員：教授・斎藤倫明（主査）、教授・小林隆、教授・後藤斉、准教授・大木一夫、准教授・甲田直美
安本真弓、2011年度、『古代日本語形容詞の研究』
審査委員：教授・小林隆（主査）、教授・斎藤倫明、教授・千種眞一、准教授・大木一夫、准教授・甲田直美
王其莉、2011年度、『判断のモダリティに関する日中対照研究』
審査委員：教授・斎藤倫明（主査）、教授・小林隆、教授・才田いずみ、准教授・大木一夫、准教授・甲田直美
矢島正浩、2011年度、『上方・大阪語における条件表現の史的研究』
審査委員：教授・斎藤倫明（主査）、教授・小林隆、教授・佐藤伸宏、准教授・大木一夫
竹田晃子、2012年度、『東北方言における述部形式の研究』
審査委員：教授・小林隆（主査）、教授・斎藤倫明、教授・才田いずみ、准教授・大木一夫
ジスク・マシュー・ヨセフ、2012年度、『日本語における漢字を媒介とした意味借用の研究』
審査委員：教授・小林隆（主査）、教授・斎藤倫明、教授・千種眞一、准教授・大木一夫、准教授・甲田直美
陳劼憚、2012年度、『現代日本語の複合動詞の研究』
審査委員：教授・斎藤倫明（主査）、教授・小林隆、准教授・大木一夫、准

教授・甲田直美、准教授：名嶋義直
津田智史、2012年度、『日本語方言アスペクトの研究』
審査委員：教授・小林隆（主査）、教授・斎藤倫明、教授・才田いずみ、准
教授・大木一夫、准教授・甲田直美
椎名渉子、2013年度、『子守歌詞章の構造と要素に関する方言学的研究』
審査委員：教授・小林隆（主査）、教授・斎藤倫明、教授・才田いずみ、准
教授・大木一夫、准教授・甲田直美
遅岐潔、2014年度、『現代日本語における可能表現の研究』
審査委員：教授・斎藤倫明（主査）、教授・小林隆、教授・才田いずみ、准
教授・大木一夫、准教授・甲田直美
鯨井綾希、2014年度、『文章中で用いられる同一語句のくり返し定量的研究』
審査委員：教授・斎藤倫明（主査）、教授・小林隆、教授・後藤齊、准教授・
大木一夫、准教授・甲田直美
山下真里、2014年度、『近代日本語における異体字の研究』
審査委員：教授・小林隆（主査）、教授・斎藤倫明、教授・千種眞一、准教
授・大木一夫、准教授・甲田直美
浅田秀子、『敬語の原理及び発展の研究』
審査委員：教授・斎藤倫明（主査）、教授・小林隆、教授・才田いずみ、准
教授・大木一夫、准教授・甲田直美

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
10	11	3	0	2	16
11	5	5	0	0	10
12	4	14	6	1	25
13	11	4	0	0	15
14	3	13	1	0	17
15	0	0	1	0	1
計	34	39	8	3	84

* 2014年度は7月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
10	1	5	1	0	7
11	0	4	3	0	7
12	0	14	8	0	22
13	0	3	8	0	11
14	0	2	7	1	10
15	0	3	0	0	3
計	1	31	27	1	60

*2014年度は7月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

中西太郎 「東北地方のあいさつ表現の分布形成過程—朝の出会い時の表現を中心に—」 『東北文化研究室紀要』 51、2010

内間早俊 「奄美・沖縄方言のカ行子音変化とその要因」 『言語科学論集』 15、2010

澤村美幸 「「死」をめぐる言葉—方言学の立場から—」、『東北文化研究室紀要』 51、2010

澤村美幸 「言語的発想法の地域差と社会的背景」、『東北大学文学研究科研究年報』 59（共著）、2010

安本真弓 「古代日本語における形容詞と動詞の対応形態とその史的変遷」 『国語学研究』 49、2010

安本真弓 「中古の状態形容詞における動詞との対応とその要因」 『文芸研究』 170、2010

山本志帆子 「『桑名日記』にみる近世末期下級武士の働きかけの表現—授受補助動詞クレル類命令形を中心として—」 『國語國文』 79-6、2010

山本志帆子 「『桑名日記』にみる近世末期下級武士の命令表現」 『社会言語科学』 13-1、2010

山本志帆子 「『桑名日記』にみる近世末期下級武士の人称代名詞」 『近代語研究』 15、2010

山本志帆子 「『桑名日記』にみる近世末期下級武士の第三者待遇表現」 『国語学研究』 49、2010

- 陳劫憚 「語彙的複合動詞の自他交替と語形成」 『日本語文法』 10-1、2010
- 李仙花 「受身文と自動詞文の関連性について—固有性と連続性の観点から—」、
『国語学研究』 49、2010
- 山下真里 「『広』の字体について—略字体の出現時期とその要因—」 『漢字文化研究』 1、2010
- 金殷模 「『てもらう』文の基本的意味と周辺の意味との関係」 『国語学研究』
49、2010
- ジスク・マシュー 「意味の上の漢文訓読語—和語『あらはす』に対する漢字『著』
の意味的影響—」 『訓点語と訓点資料』 125、2010
- 田附敏尚 「青森県五所川原市方言における不定の文末形式『ガ』について」 『国
語学研究』 50、2011
- 陳劫憚 「語彙的複合動詞の連続性と派生の方向性について」 『国語学研究』 50、
2011
- 坂喜美佳 「『咲く』の方言形『サス』の成立—サ行イ音便との関係から—」 『国
語学研究』 50、2011
- 王其莉 「日本語の『はずだ』と中国語の『應該』」 『国語学研究』 50、2011
- 川越めぐみ 「山形県寒河江市方言におけるA BラA Bラ型オノマトペについて
の考察」 『国語学研究』 50、2011
- 山下真里 「異体字が広まる一過程—『鉦』という字体を一例に—」 『訓点語と
訓点資料』 128、2012
- 中西太郎・田附敏尚・川越めぐみ・津田智史・魏ふく子・坂喜美佳ほか「東日本
大震災と被災地の方言—東北大学方言研究センターの取り組み—」 『日本語
学』 31-6、2012
- 中西太郎 「貴重な方言が消えていく」 『方言を救う、方言で救う 3.11 被災地か
らの提言』、ひつじ書房、2012
- 中西太郎 「東日本大震災と方言ネットの運用状況と今後の展開」 『東北文化研
究室紀要』 54、2012
- 王其莉 「日本語の「なければならぬ」と中国語の“必須”」、 『日中言語対照
研究論集』 14、2012
- 津田智史『理論的枠組み再構築のための日本語諸方言アスペクトの捉え方』、2012
- 津田智史「次世代に方言を伝えるために」 『方言を救う、方言で救う 3.11
被災地からの提言』、ひつじ書房、2012
- 李仙花「中立受身文に関する考察」 『国語学研究』 51、2012

- 陳劭憚「語彙的複合動詞と統語的複合動詞の連続性について—再試行を表す『～直す』を対象として—」『国語学研究』51、2012
- 安本真弓「中古和文における状態形容詞と対応動詞の機能差—動詞から形容詞が派生した対応を中心として—」『国語学研究』51、2012
- 陳劭憚「「流れ出る」と「流れ出す」の意味と統語」『言語科学論集』16、2012
- 鯨井綾希「文章中における名詞の反復の量的様相-Type-Token Ratio を利用した分析-」『計量国語学』28-6、2012
- 鯨井綾希「同一名詞の反復から見た表現媒体間の文体差-コーパスを用いた定量的分析を通して-」『言語科学論集』16、2012
- 王秀英「日本語の複合動詞「～こむ」類と中国語の複合動詞“～进/入”類との対照研究—認知意味論からのアプローチ—」『言語科学論集』16、2012
- 曾睿「接辞性字音語基の造語力—「者」「家」「人」を対象として—」『言語科学論集』16、2012
- 佐藤亜実「福島県郡山市における接尾辞ラヘンの新用法—場所を示す名詞＋ラヘンを中心として—」『言語科学論集』16、2012
- 楊婧瑋「軽重を表す形容詞『軽い』『重い』『軽』『重』についての日中対照研究」『日中語彙研究』2、2012
- 王秀英「日本語の複合動詞「～こむ」類と中国語の複合動詞“～进/入”類との対照研究：認知意味論からのアプローチ」『言語科学論集』16、2012.12
- 遅皎潔「有対自動詞による無標識可能」『国語学研究』52、2013
- 坂喜美佳「『かえず（返す）』のサ行イ音便と『かやす』の成立」『国語学研究』52、2013
- 陳劭憚「語彙的複合動詞における『他動性調和』の再考」『国語学研究』52、2013
- 曾睿「三字漢語における接辞性字音語基『車』『機』の造語機能」『国語学研究』52、2013
- 蔡薰婕「形式副詞『分』の用法記述—副詞節を形成する場合を対象として—」『日本語／日本語教育研究』4、2013
- 山下真理「銭の異体字『*』の盛衰とその要因」『日本語の研究』9-4、2013
- 李仙花「受身形の自動詞認定をめぐる—「うまれる」と「めぐまれる」の分析を通して—」『国語学研究』52、2013.3
- 遅皎潔「有対自動詞による無標識可能」『国語学研究』52、2013.3
- 山下真里「近代教育漢字字体資料の分類」『文藝研究』175、2013.3

- 鯨井綾希「同一語のくり返しが集中する文章構造の特徴—BCCWJ 特定目的サブコーパスの「教科書」を例として—」『日本語文法』13-2、2013.9
- 黄孝善「近世後期江戸語終助詞「は」の意味」『文芸研究』176、2013.9
- 山下真里「「銭」の異体字「セン」の盛衰とその要因」『日本語の研究』9-4、2013.10
- 内間早俊「南琉球方言のハ行 p 音」『言語科学論集』17、2013.12
- 佐藤亜実「そこらへん(指示代名詞+ラヘン)」の共通語化：近現代における使用地域の拡大について」『言語科学論集』17、2013.12
- 李仙花「使役文とテモラウ文の働きかけに関する考察—〈叙述〉と〈実行〉のモードにおける解釈をめぐって」『国語学研究』53、2014.3
- 内間早俊「北琉球方言における破裂音の喉頭化」『国語学研究』53、2014.3
- 遅皎潔「現代日本語における実現可能文」『国語学研究』53、2014.3
- 坂喜美佳「動詞の音便の地理的・歴史的分布」『国語学研究』53、2014.3
- 鯨井綾希「文章中の内容展開と用語類似度の変化との対応関係—接続表現の前後文脈に注目した分析—」『国語学研究』53、2014.3
- 山下真里「近代における「俗字」—近代教育漢字字体資料を対象として—」『訓点語と訓点資料』132、2014.3
- 王秀英「複合動詞の後項が前項を意味的に修飾する場合について—「～こむ」を対象として—」『国語学研究』53、2014.3
- 王秀英「上昇を表す複合動詞の日中対照研究：「～上げる」と「～上(shang)」を対象として」『文化』77、2014.3
- 佐藤亜実「福島県郡山市の若年層における接尾辞ラヘンの用法記述」『国語学研究』53、2014.3
- 内間早俊・坂喜美佳・佐藤亜実「「言語行動の枠組みに基づく方言会話記録の試み」『東北文化研究室紀要』55（共著）、2014.3
- 遅皎潔「現代日本語可能文における意志性と可能文の類型—中国語の“会”文と“能”文との対照から—」『日中言語対照論文』16、2014.5
- 山下真里「近代における教育関係の漢字字体資料」『国語文字史の研究』14、2014.7
- 曾睿「接辞性字音語基の機能と接辞性—三字漢語を構成する『性』の位置づけを通して—」『文藝研究』178、2014.9
- 黄孝善「終結語尾『～ス』の意味考察」『韓口語教育研究』4、2014.9
- 鯨井綾希「同一名詞のくり返しが生じる文章展開—接続表現を指標とした分析—」『文化』78—3・4、2015.3

- 王秀英「複合動詞『～つける』の後項の意味について—本動詞との関連から—」
『国語学研究』54、2015.3
- 曾睿「接辞性字音語基『化』の位置付け」『国語学研究』54、2015.3
- 蔡薰婕「『程度・量・数』と『状態・変化・動き』との関係」『国語学研究』54、
2015.3
- 楊婧璋「形容詞の属性と装定から述定への転換可能性との関わりについて」『国
語学研究』54、2015.3
- 山下真里「俗字と略字から見た近代教育漢字字体資料の類型」『国語学研究』54、
2015.3
- 佐藤亜実「多人数調査からみた接尾辞ラヘンの用法拡張—福島県郡山市における
多人数調査から—」『国語学研究』54、2015.3
- 山下真里「近代日本語における俗字と略字の差異」『国語文字史の研究』15、2015.7

(2) 口頭発表

- 魏ふく子 「東京方言における性向語彙の研究」 国語学研究会、2010年2月
- 澤村美幸 「日本の文化領域と言語的発想法の方言形成」 言語・文化の領域形
成に関する研究会、2010年3月
- 中西太郎 「南九州地方の朝のあいさつ表現—コンニチワマダゴワシタの衰退と
代替表現の台頭—」 国語学研究会、2010年3月
- 中西太郎 「朝のあいさつ表現の変遷—南九州地方の非定型表現地域に注目して
—」 日本語学会、2010年5月
- 陳劼憚 「語彙的複合動詞の連続性と派生の方向性について」 日本語学会、2010
年5月
- 王其莉 「中国語の『應該』と日本語の『べきだ』」 漢日対比語言学研究会、
2010年8月
- 内間早俊 「琉球方言におけるハ行子音の変遷」 国語学研究会、2010年9月
- ジスク・マシュー 「古代日本語の書記表現における漢字の意味的影響—『のす』
と『載』の関係を中心に—」 訓点語学会研究発表会、2010年10月
- 内間早俊 「琉球方言のハ行 p 音再考」 日本語学会、2010年10月
- 坂喜美佳 「『咲く』の方言形『サス』の成立—サ行イ音便との関係から—」 日
本語学会、2010年10月
- 坂喜美佳 「鹿児島県における動詞の音便について」 国語学研究会、2011年5
月

- 佐藤高司 「群馬県方言におけるべーの動態－若年層に対する 30 年間の
経年調査から－」 日本語学会、2011 年 5 月
- 陳劼憚 「再試行を表す複合動詞『～直す』の語形成－語彙的複合と統語
的複合動詞の連続性－」 日本言語学会、2011 年 6 月
- 鯨井綾希 「品詞構成の変動が文章に与える影響について－多変量解析に
よる要素の抽出を通じた分析－」 日本文芸研究会、2011 年 6 月
- 田附敏尚 「青森県五所川原市方言の『のだ』相当形式『ンダ』『ンズ』
の相違」 國學院大學国語研究会前期大会、2011 年 7 月
- 田附敏尚 「青森県五所川原市方言の文末形式とイントネーション」 国
語学研究会、2011 年 10 月
- 鯨井綾希 「名詞の反復的使用と文章の性質の違いとの関係性について
－Type/Token Ratio を通じた分析－」 社会言語科学会、2011 年 9 月
- 陳劼憚 「「他動性調和の原則」再考～なぜ語彙的複合動詞に「他動性調和」が存
在しているのか～」、「日本語レキシコンの文法的・意味的・形態的特性」
研究発表会、2012 年 2 月
- 中西太郎 「情報ネットワーク「東日本大震災と方言ネット」の構築」 日本方言
研究会、2012 年 5 月
- 田附敏尚・川越めぐみ・椎名渉子・内間早俊・佐藤亜実「被災地方言の記録と保
存」 日本方言研究会、2012 年 5 月
- 王其莉 「判断のモダリティから見た日中語の類型に関する一提案」、日中対照
言語学会、2012 年 5 月
- 津田智史ほか「震災の中で方言研究者ができること、なすべきこと」 日本方言研
究会、2012 年 5 月
- 王其莉 「中国語の“会”に関する一考察」、中国語教育学会、2012 年 6
月
- 山下真里 「近代における教育関係の漢字字体資料」、日本文芸研究会、2012 年
6 月
- 鯨井綾希 「指示連体詞の使用可能性から見た同一名詞句の反復規則」 国語学
研究会、2012 年 8 月
- 蔡薰婕 「形式副詞『分』の用法」、日本語／日本語教育研究会、2012 年 9 月
- 陳劼憚 「語彙的複合動詞と統語的複合動詞の連続性について－「～出す」を対
象として－」、「日本語レキシコンの文法的・意味的・形態的特性」研究発
表会、2012 年 9 月

- 中西太郎 「あいさつ表現の運用—日中のあいさつ—」 日本方言研究会、2012年11月
- 坂喜美佳 「四段動詞連用形の音便の地理的・歴史的分布」、日本語学会、2012年11月
- 遅岐潔 「無対自動詞文による無標識可能」、日本語学会、2012年11月
- 黄孝善 「近世後期江戸語終助詞「は」の意味」、日本語学会、2012年11月
- 曾睿 「三字漢語における接辞性字音語基の意味と造語力」、日本語学会 2012年11月
- 山下真里 「「銭」の盛衰とその要因」、日本語学会、2012年11月
- 佐藤亜実 「接尾辞ラヘンの方言学的研究」第375回国語学研究会、2013年2月
- 佐藤亜実 「「そこらへん(指示代名詞+へん)」の使用の拡大について」、JLVC2013(時空間変異研究系合同研究発表会)、2013年3月
- 佐藤亜実 「福島県郡山市における接尾辞ラヘンの用法拡張」、第96回日本方言研究会、2013年5月
- 山下真里 「近代における「俗字」—近代教育漢字字体資料を対象として—」、第109回訓点語学会研究発表会、2013年10月
- 内間早俊 「奄美・沖縄方言の摩擦音化と破裂音化」第380回国語学研究会、2013年11月
- 周然飛 「取り立て助詞における日中対照研究 —『さえ』を例として—」、国語学研究会、2014年4月
- 鯨井綾希 「接続表現の前後文脈における同一語のくり返し量の変動」、日本語学会、2014年5月
- 楊婧璋 「形容詞の属性と装定から述定への転換可能性との関わりについて」、日本語学会、2014年5月
- 内間早俊 「南琉球方言の子音変化とその要因」、日本方言研究会第98回研究発表会、2014年5月
- 内間早俊 「北琉球方言の喉頭化と母音変化の音声的関連について」、沖縄文化研究センター定期研究会、2014年6月
- 内間早俊・坂喜美佳・佐藤亜実 「生きた方言会話を記録する-気仙沼市・名取市での試み-」東北文化研究室研究発表会(共同)2014年7月
- 佐藤亜実 「多人数調査から見た接尾辞ラヘンの用法拡張—福島県郡山市を対象に—」国語学研究会、2014年9月

蔡薰婕「『程度・量・数』と『状態・変化・動き』との関係」国語学研究会、2014年12月

山下真里「近代日本における字体範疇『俗字』の成立背景」土曜ことばの会、2015年1月

崔柳美「補助動詞『ておく』の多義構造と派生関係」日本語学会、2015年5月
坂喜美佳・佐藤亜実・内間早俊・小林隆「方言会話の記録に関する一つの試み」日本語学会、2015年5月

3 大学院生・学部生等の受賞状況

山下真里：漢検漢字文化研究奨励賞（優秀賞）、2011年3月

山本志帆子：東北大学総長賞、2011年3月

遅皎潔：東北大学藤野先生記念奨励賞、2014年9月

山下真里：平成26年度（第32回）新村出記念財団研究奨励賞、2014年11月

山下真里：東北大学総長賞、2015年3月

4 日本学術振興会研究員採択状況

2010年度 DC2 採用 1名、PD 採用 1名

2011年度 DC2 採用 2名

2012年度 DC1 採用1名、DC2 採用1名

2013年度 DC1 採用1名、DC2 採用1名

2014年度 DC1 採用1名

5 留学・留学生受け入れ

5-1 大学院生・学部学生等の留学数

なし

5-2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
10	18	17	35
11	10	15	25
12	7	19	26
13	6	21	27
14	8	22	30
15	10	21	31

計	59	115	174
---	----	-----	-----

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
10	1	1	2
11	1	0	1
12	1	0	1
13	0	0	0
14	0	0	0
15	0	1	1
計	3	2	5

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

松崎安子 米子工業高等専門学校講師 2010年度
張雅智 台湾育達商科技大学人文社会学院助理教授 2010年度
王秀芳 中国南開大学副教授 2010年度
澤村美幸 和歌山大学教育学部講師 2011年度
櫛引祐希子 追手門学院大学国際教養学部講師 2011年度
山本志帆子 佐賀大学文化教育学部講師 2011年度
鳴海伸一 東北大学大学院文学研究科助教 2011年度
吉田雅昭 韓国高麗大学文化大学講師 2011年度
新井小枝子 群馬県立女子大学文学部准教授 2012年度
鳴海伸一 京都府立大学文学部講師 2012年度
安本真弓 志學館大学人間関係学部講師 2012年度
Zisk, Matthew Joseph 山形大学大学院理工学研究科助教 2012年度
李仙花 東北大学大学院文学研究科助教 2012年度
中西太郎 明海大学外国語学部日本語学科 2012年度
田附敏尚 神戸松蔭女子学院大学文学部 2012年度
川越めぐみ 名古屋学院大学商学部 2012年度
王其莉 西南学院大学言語教育センター 2012年度
津田智史 国立国語研究所（学振特別研究員）2013年度

7-2 専攻分野出身の高度職業人

高校教員 5 名、
ジャーナリスト 1 名、
新聞社校閲部 1 名

8 客員研究員の受け入れ状況

札幌大学准教授（佐々木冠） 2010 年 4 月 1 日～9 月 30 日
中京大学准教授（後藤英次） 2011 年 4 月 1 日～2012 年 3 月 31 日
淡江大学（台湾） 助理教授（林青樺） 2011 年 8 月 3 日～9 月 3 日
淡江大学（台湾） 助理教授（林青樺） 2013 年 1 月 16 日～2 月 18 日

9 外国人研究者の受け入れ状況

2011 年度：1 名（台湾）
2012 年度：1 名（台湾）

10 刊行物

『国語学研究』（49 集～54 集：年刊）
『東北大学大学院文学研究科言語科学論集』（第 13～18 号：年刊）〔言語学専攻分野・日本語教育学専攻分野と共同で刊行〕

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2010 年度 日本方言研究会副事務局
2011 年度 日本方言研究会事務局
研究報告会「東日本大震災と方言」開催
2012 年度 第 30 回社会言語学会開催
研究報告会「文化としての方言・絆としての方言－東日本大震災、被災地からの発信」開催
2013 年度 活動報告会「被災地の方言を伝えるために」開催

12 専攻分野主催の研究会等活動状況

国語学研究会の開催
2009 年度：6 回（第 352 回～357 回）
2010 年度：6 回（第 358 回～363 回）
2011 年度：6 回（第 364 回～369 回）

2012年度：7回（第370回～376回）

2013年度：5回（第377回～381回）

2014年度：6回（第382回～387回）

2015年度：1回（第388回）

1.3 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

国語学専攻分野は、この5年間、国語学の領域全般に亘って研究・教育活動を展開してきました。具体的には、当専攻分野の伝統に従って、大きく、国語史学・方言学・現代語研究の3分野態勢を取り、国語史学は大木一夫准教授、方言学は小林隆教授、現代語研究は斎藤倫明教授と甲田直美准教授が中心になって担当し、研究および学生指導に精力的に当たってきました。その結果、多数の大学院生を社会に送り出すとともに、多くの優秀な人材を学界へデビューさせることができました。また、学問の性質上、方言学の分野では、社会からの関係強化の要請が、また、現代語研究の分野では、留学生を通して東アジア諸国との関係強化の要請が強く、そのいずれに対しても、できるだけ積極的に対応するように務めてきました。その結果、当専攻分野はそれらの方面でも高く評価されています。

具体的な当専攻分野における研究活動として第一に挙げられるのは、方言学に関する活動です。2004年度には、「東北大学方言研究センター」を立ち上げ、以後、調査資料のデータベース化、学生の教育、マスコミの方言企画への協力等の社会的な要請に積極的に対応してきました。第二に、国際交流に関して、客員研究員、中国政府派遣研究員という形で多くの外国人研究者を受け入れ、教員や学生との研究上の交流を図ってきました。なお、2007年度以降、斎藤倫明教授が韓国、台湾へ出張し、日本語学に関する学会で講演を行ったり集中講義を行ったりしました。第三に、当専攻分野では、毎年1冊『国語学研究』という研究誌を刊行していますが、この5年間（5冊）で計60本以上の研究論文を掲載しました。執筆者は大学院生と卒業生が中心ですが、教員や当専攻分野に縁のある全国の研究者が質の高い論文を執筆し、学界から高い評価を得ています。その他年に5、6回「国語学研究会」という公開の研究発表会を開催しています。

当専攻分野における教育活動として挙げられるのは、第一に、大学院生の受け入れ数の多さです。特に、当専攻分野では外国人留学生を数多く受け入れ、この5年間で、文学研究科で最も多い計143名（延べ数）の留学生を受け入れています。中心は、韓国、台湾、中国の東アジアからの留学生ですが、アメリカからも来ています。また最近は、タイやモンゴル、ポーランド、リトアニア、スリランカといった従来あまり交流のなかった国からの留学生も受け入れています。第二に、学位授与ですが、当専攻分野は、こ

の5年間で、課程博士を19名出しており、毎年コンスタントに2名以上課程博士の学位を授与しています。第三に、大学院生の研究活動に対する支援ですが、雑誌論文の執筆に関して、上記『国語学研究』を始め、言語科学専攻で共同発行している『言語科学論集』、文学研究科の発表誌『文化』を中心に発表するように指導しています。その他できるだけ全国学会誌にも投稿することを勧めており、この5年間で、日本語学会の機関誌『日本語の研究』に2本、日本語文法学会の機関誌『日本語文法』に2本、社会言語学会の機関誌『社会言語科学』に1本、訓点語学会の機関誌『訓点語と訓点資料』に3本、計量国語学会の機関誌『計量国語学』に1本、日本文芸研究会の機関誌『文芸研究』に4本というように、数多くの論文を大学院生が発表し、それぞれ学界から高い評価を得ています。なお、論文発表の前段階として、全国学会での口頭発表にも力を入れています。

最後に、特筆すべき点として、2011年3月に発生した東日本大震災との関わりで、「東日本大震災と方言」「文化としての方言・絆としての方言」「被災地の方言を伝えるために」といった研究報告会を開催している点です。これは、東日本大震災で被災した地域の方言を取り上げ、その現状と問題点を明らかにするとともに将来への保存の在り方をめぐってさまざまな観点から議論するものです。また、文化庁から、2011・2012年度には「東日本大震災において危機的状況が危惧される方言の実態に関する調査研究事業」を、2013・2014年度には「被災地方言の保存・継承のための方言会話の記録と公開」を委託され、さまざまな活動を行っています。

以上、国語学専攻分野における過去5年間の研究・教育活動について述べました。

Ⅲ 教員の研究活動（2010年度～2015年5月20日）

1 教員による論文発表等

1-1 論文

斎藤倫明「複合語の語構成要素間に見られる使役的關係について」、『国語語彙史の研究』29,和泉書院,pp.261-274,2010

斎藤倫明「複合語の語構成要素間に見られる受身的關係について」、『文化』74-1/2,東北大学文学研究科,pp.1-19,2010

斎藤倫明「言語単位から見た文法論の組織—山田文法を出発点として—」、『山田文法の現代的意義』ひつじ書房, pp.31-51,2010

斎藤倫明「複合語に見られる間接的な受身的關係について」、『国語と国文学』88-1, pp.1-14,2011

斎藤倫明「拘束形式の複合字音語基の位置づけに関して—従来の複合字音語基分

- 類との関わりでー」,『文学研究科研究年報』62,pp.左 107-139,2013
- 斎藤倫明「複合字音語基用言類の下位分類ー漢語動名詞との関わりでー」,『文学研究科研究年報』63,pp.左 149-177,2014
- 斎藤倫明「複合字音語基の『兼用』について」,『文化』77-3・4,pp.左 1-20,2014
- 小林隆「オノマトペの地域差と歴史ー「大声で泣く様子」についてー」,小林隆・篠崎晃一編『方言の発見』,ひつじ書房,pp.21-47,2010
- 小林隆「日本語方言の形成過程と方言接触」,『日本語学』2010年11月臨時増刊号,明治書院,pp.32-44,2010
- 小林隆「日本における方言調査・記録の現状ー「消えゆく日本語方言の記録調査」の取り組みー」,『新国語生活』20-3,pp.38-52,2010
- 小林隆「感動詞「猫の呼び声」」,『宮城県・山形県陸羽東線沿線地域方言の研究』pp.162-172,2011
- 小林隆「方言形成論の到達点と課題ー方言圏論を核としてー」,『東北大学文学研究科研究年報』61,pp.107-143,2012
- 小林隆「驚きの感動詞「バ」」,『宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究』,165-188p,2012
- 小林隆「東日本大震災と被災地の方言ー東北大学方言研究センターの取り組みー」,『日本語学』31-6,明治書院,pp.28-41,2012(共著)
- 小林隆「東日本大震災と方言の危機」,『日語日文学研究』84,pp.1-6,2013
- 小林隆「共通語形の分布と伝播について」,熊谷康雄編『大規模方言データの多角的分析成果報告書ー言語地図と談話資料ー』国立国語研究所共同研究報告12-05,pp.129-142,2013(共著)
- 小林隆「大規模方言分布データの構築に向けてー東北大学方言研究センターの全国分布調査ー」,熊谷康雄編『大規模方言データの多角的分析成果報告書ー言語地図と談話資料ー』国立国語研究所共同研究報告12-05,pp.143-155,2013
- 小林隆「言語行動の枠組みに基づく方言会話記録の試み」,『東北文化研究室紀要』55,pp.1-35,2014(共著)
- 小林隆「配慮表現の地理的・社会的変異」,野田尚史・高山善行・小林隆編『日本語の配慮表現の多様性』,くろしお出版,37-54p,2014
- 小林隆「あいさつ表現の発想法と方言形成ー入店のあいさつを例にー」,小林隆編『柳田方言学の現代的意義』,ひつじ書房,99-124p,2014
- 小林隆「方言形成論の到達点と課題ー方言圏論を核としてー(改定版)」,小林

- 隆編『柳田方言学の現代的意義』, ひつじ書房, 339-384p,2014
- 小林隆「猫の呼び声の地理的研究—動物に対する感動詞—」,友定賢治編『感動詞の言語学』,ひつじ書房, 215-236p,2015
- 大木一夫「古代日本語動詞の活用体系—古代日本語動詞形態論・試論—」『東北大学文学研究科研究年報』 59, pp.1-36,2010.3
- 大木一夫 「文の成立—その意味的側面」 斎藤倫明・大木一夫(編)『山田文法の現代的意義』ひつじ書房, pp.75-96, 2010.12
- 大木一夫「事態を描かない文・素描」,『東北大学文学研究科研究年報』 61, pp.1-27, 2012.3
- 大木一夫「不変化助動詞の本質、続貂」,『国語国文』 81-9, pp.1-17, 2012.9
- 大木一夫「文に切る—文成立の外形的側面」,『東北大学文学研究科研究年報』 62, pp.1-24, 2013.3
- 大木一夫「現代日本語「た」の意味」,『文化』 76-3・4, pp.14-33, 2013.3
- 大木一夫「現代日本語動詞基本形の時間的意味」,『東北大学文学研究科研究年報』 64, pp.1-29, 2015.3
- 大木一夫「一回的文成立論と多段階的文成立論」,『輔仁大学日本語日本文学』 43 輯, pp.99-119, 2015.4
- 甲田直美「名詞修飾節による「語り」の終結—「みたいな」「っていう」の表現性と談話機能—」『言語の創発と身体性』ひつじ書房,pp.431-447.2013
- 甲田直美「読解における仮説検証能力と自己モニタリング」『日本語・日本語教育の研究—その今、その歴史』スリーエーネットワーク,pp.15-27,2013
- 甲田直美「「語り」の終結における中途終了形式」『文化』 76-3・4,pp.19-38,2013
- 甲田直美「接続詞と物語叙法」『言語表現学叢書 第2巻 言語表現学の諸相』清文堂出版, pp.66-73, 2013.6
- 甲田直美「文章・文体(理論・現代)」『日本語の研究』 6-1, 2014.7
- 甲田直美「語り内において連鎖する節の音声特徴: 順番取りシステム再開位置との関連から」『認知言語学論考』 12, 261-290, 2015.3
- 甲田直美「語りの達成における思考・発話の提示」『社会言語科学』17-2,1-16, 2014.3

1-2 著書・編著

- 斎藤倫明・大木一夫編『山田文法の現代的意義』ひつじ書房 pp.313,2010
- 斎藤倫明『これからの語彙論』(編著),ひつじ書房, pp.319,2011
- 斎藤倫明『日本語語彙へのアプローチ—形態・統語・計量・歴史・対照—』(編

- 著), おうふう, pp.320,2015
- 小林隆『方言の発見』(編著), ひつじ書房, 207p,2010
- 小林隆『言語的発想法の地域差とその形成に関する研究』(編著), 平成 22 年度
科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書,98p,2011
- 小林隆『宮城県・山形県陸羽東線沿線地域方言の研究』(編著), 東北大学国語学
研究室,241p,2011
- 小林隆『宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究』(編著), 東北大学国語学
研究室,286p,2012
- 小林隆『とうほく方言の泉—ことばの玉手箱—上・中・下』(共著), 河北新報出
版センター, 上 281p, 中 283p, 下 291p,2013
- 小林隆(編著)『日本語の配慮表現の多様性—歴史的変化と地理的・社会的
変異』, くろしお出版, 319p,2014
- 小林隆(編著)『柳田方言学の現代的意義—あいさつ表現と方言形成論—』, ひつ
じ書房, 393p,2014
- 小林隆『ものの言いかた西東』(共著), 岩波書店, 230p,2014
- 大木一夫『古代日本語連体形の機能とその変遷—係り結び文・連体形終止文を視
座として—』, 平成 21 年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書,
136p,2010.3
- 大木一夫『ガイドブック日本語史』ひつじ書房, 252p,2013.5
- 甲田直美『自然談話文法構築のための、節連鎖構造に関する実証的研究』, 平成 26
年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書, 100p, 2015.3
- 東北大学方言研究センター『東日本大震災と方言』, 東北大学国語学研究室,
147p,2011
- 東北大学方言研究センター『文化庁委託事業報告書: 東日本大震災におい
て危機的な状況が危惧される方言の実態に関する予備調査研究』東北
大学国語学研究室, 470p,2012
- 東北大学方言研究センター『方言を救う、方言で救う—3.11 被災地からの提言—』,
ひつじ書房,200p,2012
- 東北大学方言研究センター『伝える、励ます、学ぶ、被災地方言会話集—
宮城県沿岸 15 市町—』東北大学国語学研究室, 693p,2013
- 東北大学方言研究センター『文化庁委託事業報告書: 東日本大震災におい
て危機的な状況が危惧される方言の実態に関する調査研究(宮城県)』

- 東北大学国語学研究室, 823p,2013
- 東北大学方言研究センター『生活を伝える被災地方言会話集－宮城県気仙沼市・名取市の100場面会話－』東北大学国語学研究室, 384p,2014
- 東北大学方言研究センター『文化庁委託事業報告書：被災地方言の保存・継承のための方言会話の記録と公開』東北大学国語学研究室, 383p,2014
- 東北大学方言研究センター『生活を伝える被災地方言会話集2－宮城県気仙沼市・名取市の100場面会話－』東北大学国語学研究室, 202p,2015
- 東北大学方言研究センター『文化庁委託事業報告書：被災地方言の保存・継承のための方言会話の記録と公開2』東北大学国語学研究室, 202p,2015

1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

(1) 辞典項目

- 斎藤倫明「形態素」「語構成」「接辞」「転成」「派生」「山田孝雄」,
日本文法学会編『日本語文法事典』,大修館書店,2014.7
- 斎藤倫明「語構成」「語根」「造語法」,佐藤武義・前田富祺他編『日本語大事典』,
朝倉書店,2014.11
- 大木一夫「述定と装定」,日本語文法学会編『日本語文法事典』,大修館書店,2014.7
- 大木一夫「受身の助動詞」「過去の助動詞」「可能・自発の助動詞」「古事談」
「後奈良院御撰何曾」「寒川入道筆記」「使役の助動詞」「尊敬の助動詞」
「指定の助動詞」「史籍集覧」「史料纂集」「史料大観」「史料大成」「史料通覧」
「新群書類従」「大日本古記録」「大日本史料」「比況の助動詞」
佐藤武義・前田富祺編『日本語大事典』,朝倉書店,2014.11

(2) 解説

- 斎藤倫明・影山太郎「日本語レキシコン入門 語種と語形成」,『レキシコンフォーラム』6,pp.19-41,ひつじ書房,2013年
- 大木一夫「研究史」(2012年・2013年における日本語学界の展望),『日本語の研究』10-3, pp.5-8, 2013.7

(3) 書評

- 斎藤倫明「〔書評〕蜂矢真郷『国語派生語の語構成論的研究』」『日本語の研究』8-2,2012年

- 小林隆「〔書評〕柳田征司著『日本語の歴史 1 方言の東西対立』」『日本語の研究』9-2,2013年
- 大木一夫「書評 野村剛史著『日本語スタンダードの歴史—ミヤコ言葉から言文一致まで—』」『日本語の研究』11-1, 2015.1
- 甲田直美「石黒圭著『日本語の文章理解過程における予測の型と機能』」『日本語の研究』5-4、2009年

(4) その他

- 斎藤倫明 「語彙」, 益岡隆志編『はじめて学ぶ日本語学』, pp.88-102, ミネルヴァ書房, 2011年
- 小林隆 「現代方言の文語化傾向」, 『学鑑』109-3, pp.18-21, 2012
- 小林隆 「被災者と支援者をつなぐ方言パンフレットの作成」, 『日本語教育国際研究大会名古屋 2012 特別イベント関連事例集「わたしたちのまちづくり—震災のあと行ってきたこと, これから行っていくこと—」』, pp.5-8, 2012 (共著)
- 小林隆 「形式の地域差から発想法の地域差へ」, 『日本語学』31-14, p.93, 2012
- 小林隆 「ものの言い方、西・東」, 『北海道方言研究会会報』89, p.113, 2012
- 小林隆 「ワークショップ報告 つなぐ言葉としての方言—被災者・支援者・そして研究者—」, 『社会言語科学』15-2, pp.93-98, 2013
- 小林隆 「ジェジェジェの方言学」, 『北海道方言研究会 40 周年記念論文集』, p.128, 2014
- 小林隆 「挨拶する地域、しない地域」, 『日本教育』平成 26 年 12 月号, p.26-27, 2014
- 小林隆 「方言で学ぶ古典の言葉」, 『日本教育』平成 27 年 1 月号, p.28-29, 2015

1-4 口頭発表

(1) 国際学会

- 斎藤倫明 講演「複合語に見られる間接的な受身的関係について」台湾日本語文学会, 台湾淡江大学, 2009年12月19日
- 小林隆 講演「東日本大震災と方言の危機」韓国日語日文学会, 明知大学校, 2012年10月13日
- 甲田直美 (Naomi Koda) Hypothesis-testing and self-monitoring reading. アメリカ日本語・日本文学学会, USA, 2010.3
- 甲田直美 (Naomi Koda) Reading comprehension, text organization, and thinking styles: A five-country survey. 23rd World Congress on Reading, International Reading

Association, New Zealand, 2010.7

甲田直美 「読解促進材料が日本語学習者の文章理解に及ぼす効果」2012年日本語教育国際研究大会口頭発表, 名古屋大学, 2012年8月19日

甲田直美 語りにおける節連鎖構造とターン交替 Clause chaining and turn taking in Japanese intraconversational narratives 第8回 日本語実用言語学国際会議 THE EIGHTH INTERNATIONAL CONFERENCE ON PRACTICAL LINGUISTICS OF JAPANESE (ICPLJ8) 国立国語研究所, 2014年3月22日

甲田直美 「語り内において連鎖する節の音響特徴: 順番取りシステム再開位置との関連から」言語科学会 (Japanese Society for Language Sciences) 第16回年次国際大会(JSLS2014) 2014年6月28日

(2) 国内学会

斎藤倫明 「漢語の分類を考えるー複合字音語基分類再考ー」、日本言語学会第147回大会公開シンポジウム, 2013年11月, 神戸市外国語大学

小林隆 「言語的発想法の歴史と方言の形成」, 日本語学会シンポジウム, 日本女子大学, 2010年5月

小林隆 「講演: 東西・言葉の発想法」, 國學院大学国語研究会平成22年度後期大会, 國學院大学, 2010年11月

小林隆 「方言分布の経年比較ー分布はどう動くか?ー」, 方言の形成過程解明のための全国方言調査研究発表会, 国立国語研究所, 2010年12月

小林隆 「方言圏論の現在」, 東北文化研究室柳田国男五十年祭記念シンポジウム, 東北大学, 2011年11月

小林隆 「震災の中で方言研究者ができること、なすべきこと」, 日本方言研究会ポスター発表, 千葉大学, 2012年5月 (共同)

小林隆 「知られざる地域差を探るー表現法・言語行動, そして発想法ー」, 大規模方言データの多角的分析研究会, 東北大学, 2012年8月

小林隆 「つなぐ言葉としての方言ー方言ネットでつなぐー」, 社会言語科学会ワークショップ, 東北大学, 2012年9月

小林隆 「配慮表現の地理的・社会的な変異」, シンポジウム日本語の配慮表現の多様性, 科学技術館, 2012年9月

小林隆 「あいさつ表現の方言学ーあいさつ表現の発想ー」, 日本方言研究会シンポジウム, 富山大学, 2012年11月

小林隆 「講演: ものの言い方、西・東」, 北海道方言研究会例会第200回記

- 念大会,北海道大学, 2012年11月
- 小林隆「共通語形の分布と伝播について」,大規模方言データの多角的分析ワークショップ,全国町村会館, 2012年12月
- 小林隆「東北方言の特質と形成に関する試論」,国立国語研究所「方形成過程解明のための全国方言調査」公開研究発表会, コラッセふくしま, 2013年12月
- 小林隆「生きた方言会話を記録するー気仙沼市と名取市での試みー」,2014年度東北文化研究室発表会, 東北大学, 2014年7月 (共同)
- 小林隆「方言と向き合うー3.11被災地での取り組みー」, 東北大学, 2014年10月 (共同)
- 甲田直美「理解、思考、テキスト-方法論の検討と併せて-」第7回京都言語学コロキウム年次大会、京都大学, 2010年8月
- 甲田直美「語り終結部における思考・発話の発露」社会言語科学会第32回研究大会, 信州大学, 2013年9月

(3) その他

- 斎藤倫明 講演「複合名詞の語構造と語彙の教育ーヴォイス的關係が見られる場合ー」(2010南台科技大学華語教育文化交流講座)、台湾南台科技大学,2010年6月15日
- 斎藤倫明 講演「拘束形式の二字漢語と日本語教育」(2010年言語・外国語教育研究シンポジウムースキルとしての外国語・教育ー)、台湾輔仁大学,2010年11月20日
- 斎藤倫明 講演「現代日本語の語彙について」、台湾淡江大学,2010年11月22日
- 斎藤倫明 講演「拘束形式の複合字音語基についてーその特質と分類ー」、台湾大学、2010年11月23日
- 斎藤倫明 講演「現代日本語の語彙と語彙分類」、台湾高雄大学、2010年11月24日
- 斎藤倫明 講演「語彙および語彙論の理論的基盤について」、台湾大学、2012年11月20日
- 斎藤倫明 講演「現代日本語の複合字音語基についてー特質と分類ー」、韓国日本語学会、2013年9月
- 大木一夫 研究発表「一回的文成立論と多段階的文成立論」、輔仁大学国際シンポジウム「新旧の出会いとところー日本語文法の理論と実践ー」、台湾輔仁大学、2014年11月15日

甲田直美 研究発表「語りの終結部を観察するー思考・発話の発露を中心にー」
第5回談話分析コロキウム、2012年12月、山形テルサ

甲田直美 研究発表「連鎖する語り」第6回談話分析コロキウム、2014年12月、
山形テルサ

2 教員の受賞歴 (2010年度～2015年5月20日)

なし

IV 教員による競争的資金獲得 (2010～2015年度)

(1) 科学研究費補助金

2010～2011年度 課題番号：21520466 基盤研究(C)山田孝雄・小林好日を視座
とした近代日本語学確立過程の学史的的研究 研究代表者：斎藤倫明
3,160,000円

2012～2014年度 課題番号：24520491 基盤研究(C)山田孝雄を中心とする近代
日本語学確立期の多面的的研究 研究代表者：斎藤倫明 2,700,000円

2010年度 課題番号：19520384 基盤研究(C)方言形成における中央語再生現象
の研究 研究代表者：小林隆 1,860,000円

2010年度 課題番号：19320067 基盤研究(B)現代日本語の感動詞の実証的・理
論的基盤構築のための調査研究 研究分担者：小林隆

2010～2011年度 課題番号：21520466 基盤研究(C)山田孝雄・小林好日を視座
とした近代日本語学確立過程の学史的的研究 研究分担者：小林隆

2010～2012年度 課題番号：22520484 基盤研究(C)日本語方言オノマトペの記
述モデル構築に関する研究 研究分担者：小林隆

2011～2014年度 課題番号：23520543 基盤研究(C)言語運用における発想法の
地域差と社会的・歴史的背景についての研究 研究代表者：小林隆
1,800,000円

2012～2014年度 課題番号：24520491 基盤研究(C)山田孝雄を中心とする近代
日本語学確立期の多面的的研究 研究分担者：小林隆

2013年度 課題番号：25284087 基盤研究(B)方言話し言葉コーパスの構築とコ
ーパスを使った方言分析に関する研究 研究分担者：小林隆

2010～2011年度 課題番号：21520466 基盤研究(C)山田孝雄・小林好日を視座
とした近代日本語学確立過程の学史的的研究 研究分担者：大木一夫

2012～2014年度 課題番号：24520491 基盤研究(C)山田孝雄を中心とする近代

- 日本語学確立期の多面的研究 研究分担者：大木一夫
2014～2015 年度 課題番号：26370524 基盤研究(C) 日本語史叙述の方法に関する基礎的研究 研究代表者：大木一夫 1,040,000 円
- 2010～2011 年度 課題番号：21720181 若手研究(B)読解促進材料が日本語学習者の文章理解・作成へ及ぼす効果の解明 研究代表者：甲田直美 1,820,000 円
- 2010～2011 年度 課題番号：21520466 基盤研究(C)山田孝雄・小林好日を視座とした近代日本語学確立過程の学史的な研究 研究分担者：甲田直美
- 2012～2014 年度 課題番号：24520415 基盤研究(C)自然談話文法構築のための、談話標識の機能に関する実証的研究 研究代表者：甲田直美 3,380,000 円
- 2012～2014 年度 課題番号：24520491 基盤研究(C)山田孝雄を中心とする近代日本語学確立期の多面的な研究 研究分担者：甲田直美
- 2015～2017 年度 課題番号：15K02468 基盤研究(C) 自然談話構造理解のための、音声情報に基づいた談話標識の研究 研究代表者：甲田直美 2,860,000 円
- 2015～2018 年度 基盤研究(A)「読解コーパスの構築による日本語学習者の読解過程の実証的研究」 研究分担者：甲田直美

(2) その他

1) 総長裁量経費

なし

2) 研究科長裁量経費

2011 年度 小林隆・国語学研究室の学生たち「東日本大震災の被災地における方言支援事業」(研究科長裁量経費)

3) 委託事業

2011 年度 小林隆「東日本大震災において危機的な状況が危惧される方言の実態に関する予備調査研究事業」(文化庁)

2012 年度 小林隆「東日本大震災において危機的な状況が危惧される方言の実態に関する調査研究事業(宮城県)」(文化庁)

2013 年度 小林隆「被災地方言の保存・継承のための方言会話の記録と公開」

(文化庁)

2014年度 小林隆「被災地方言の保存・継承のための方言会話の記録と公開2」

(文化庁)

V 教員による社会貢献 (2010年度～2015年5月20日)

斎藤倫明 財団法人仙台国際交流協会主催日本語教師ボランティア育成講座講師 2010年度

斎藤倫明 出演：「すっとんきょう」「ひょんなこと」の語源 (ミヤギテレビ、OH! バンデス) 2010年5月19日

斎藤倫明 講演：「日本語に見られる『男』と『女』」(第4期 斎理蔵の講座)、2011年10月1日

斎藤倫明 出演：「繰り返し符号について」(ミヤギテレビ、OH! バンデス) 2012年2月17日

斎藤倫明 講演「言語学から見た日本語オノマトペの諸相」、東北大学医学部第二外科同門会「瓢木会」、2013年11月9日

小林隆 監修・出演：ことばマガジン (東日本放送) 2010年度

小林隆 講演：古くて新しい方言の魅力 (みやぎの魅力再発見セミナー) 2010年1月28日

小林隆 講演：“物の言い方”に見る東西差 (東北大学 103 周年関西交流会) 2010年2月6日

小林隆 寄稿：とうほく 方言の泉 (河北新報朝刊 連載) 2010年5月～2013年3月

小林隆 寄稿：当たり前を疑う。常識を覆す。(『考えるということ』5, 東北大学文学部) 2010年6月

小林隆 寄稿：“物の言い方”に見る東西差 (『U7』333, 学士会) 2010年8月

小林隆 寄稿：ひらめく、ということ (『曙光』30, 東北大学学務審議会) 2010年10月

小林隆 講演：仙台と方言—その現状と将来— (せんだい豊齢学園) 2010年10月8日

小林隆 講演：方言が明かす日本語の歴史 (FUJITSU ファミリー会東北支部総会) 2011年3月2日

小林隆 講演：言葉遣いに見る日本の地域差 (東北大学教育学部同窓会仙台支部第30回記念総会講演会) 2010年11月7日

- 小林隆 講演：東北地方の文化と言語（日本赤十字看護学会「東北地方の文化と言語の研修会」）2011年7月18日
- 小林隆 研究報告：東日本大震災と方言（東北大学方言研究センター研究報告会）2011年10月9日
- 小林隆 講演：仙台と方言（せんだい豊齢学園）2012年1月16日
- 小林隆 講義：地図で見る上越の方言」（新潟県立直江津高等学校模擬講義）,2012年6月25日
- 小林隆 寄稿：方言を調べると日本語の歴史が見えてくる（『まなびのめ』17, 笹気出版印刷）2012年7月
- 小林隆 講演：漢語と方言（第4回漢検生涯学習ネットワーク会員向け研修会）2012年7月1日
- 小林隆 講演：仙台と方言（せんだい豊齢学園）2012年10月5日
- 小林隆 監修：仙台弁かるた 新版（東北放送）2012年11月
- 小林隆 研究報告：文化としての方言・絆としての方言－東日本大震災、被災地からの発信（文化庁委託事業研究報告会）2013年3月9日（仙台）・2013年3月19日（東京）
- 小林隆 寄稿：方言パンフレットで支援する（『星座』65）2013年3月
- 小林隆 寄稿：方言の面白さを知る－辞書活用アイデア（『教育科学国語教育』760）2013年3月
- 小林隆 出演：トクする日本語（NHK）2013年5月29日
- 小林隆 講演：漢字と方言（福島県漢字同好会講演会）2013年7月7日
- 小林隆 講演：東北方言はどんな方言か？（大和町まほろば大学郷土史講座）2013年7月13日
- 小林隆 出演：あさいチ（NHK）2013年7月17日
- 小林隆 インタビュー記事：文学部の研究紹介⑧東日本大震災被災地域への視点（『考えるということ』5,東北大学文学部）2013年7月
- 小林隆 講演：仙台と方言（せんだい豊齢学園）2013年8月26日
- 小林隆 出演：方言を次世代に伝える－被災地方言会話集の作成－について（東北大学防災UPDATES!）2013年12月19日
- 小林隆 寄稿：方言の伝承という東北復興支援（『にほんごっ子』）2014年1月
- 小林隆 出演：方言の記録と保存の活動・方言が復興の中で果たす役割（J-WAVE TOKYO MORNING RADIO）2014年3月17日

- 小林隆 出演：気候は方言にどう影響するか（所さんの目がテン）2014年4月10日
- 小林隆 講演：東日本大震災と失われゆく方言（東日本大震災復興支援のための講演とコンサートー第6回「名もない花たちの演奏会」の集いー）2014年4月20日
- 小林隆 活動報告：被災地の方言を伝えるために（文化庁委託事業活動報告会）2014年5月17日（早稲田大学）
- 小林隆 講義：つなぐ言葉としての方言ー3.11被災地からー（2014年度開設放送大学ラジオ特別講義）
- 小林隆 講義：東北の方言（放送大学面接授業）2014年6月7日
- 小林隆 講演：仙台と方言（せんだい豊齢学園）2014年7月11日
- 小林隆 寄稿：方言は力なり（福島みんなのNEWS）2014年10月
- 小林隆 出演：クレッシェン堂 復興堂（Date FM エフエム仙台）2014年10月22日
- 小林隆 講演：ものの言い方の地域差（コスモス会11月例会）2014年11月19日
- 小林隆 寄稿：東北弁の科学（河北新報連載）2014年11月25～30日
- 小林隆 講演：震災と方言ー被災地にとって方言とは何かー（復興大学公開講座）2015年2月7日
- 大木一夫 国文学研究資料館国文学文献資料調査員 2010年～2015年
- 大木一夫 講義：ことばの歴史をさぐるー日本語の歴史入門ー（福島県立安積高等学校大学模擬授業）,2010年7月1日
- 大木一夫 講義：ことばはなぜ変化するのかー歴史言語学入門ー（秋田県立横手高等学校大学模擬講義）,2010年9月1日
- 大木一夫 講演：「へえ～」がいっぱい おもしろい「漢字」のお話 日本の漢字問題の歴史（仙台リビング新聞社 2010 リビングカレッジ）,2010年9月27日
- 大木一夫 寄稿：「漢字の話」（リビング仙台、連載）2011年4月～2013年3月
- 大木一夫 監修：「え？これ知らなかったの？」（TBS）,2013年11月27日
- 大木一夫 公開講義：「ことばはなぜ変化するのか？」東北大学文学部オープンキャンパス,2014年7月31日
- 甲田直美「会話スタイルからみた日本人」宮城県民大学, 2013年10月12日

東北大学方言研究センター「支援者のための気仙沼方言入門」, 東北大学国語学
研究室, 2012年8月

VI 教員による学会役員等の引き受け状況 (2010～2015年度)

斎藤倫明

- 日本語学会評議員 (2010～2014年度)
- 日本語学会常任査読委員 (2010～2012年度)
- 日本語文法学会評議員 (2010年度～2014年度)
- 日本言語学会大会運営委員 (2011年度～2013年度)
- 日本文芸研究会委員 (2010～2014年度)

小林隆

- 日本語学会理事 (2012～2014年度)
- 日本語学会評議員 (2010～2014年度)
- 日本方言研究会世話人 (2010～2013年度)
- 日本方言研究会事務局 (2010・2011年度)
- 日本学術会議連携会員 (2011～2014年度)

大木一夫

- 訓点語学会委員 (2010～2015年度)
- 日本文芸研究会委員 (2010～2015年度)
- 日本語文法学会大会委員 (2010～2012年度)
- 日本語学会大会企画運営委員 (2012～2015年度)
- 日本語文法学会学会誌委員 (2013～2015年度)
- 日本歴史言語学会大会実施委員 (2013年度)

甲田直美

- 日本語文法学会学会誌委員 (2010～2012年度)
- 日本語学会常任査読委員 (2013～2014年度)
- 日本語文法学会学会誌委員 (2013～2015年度)

VII 教員の教育活動 (2015年度)

(1) 学内授業担当

1 大学院授業担当

斎藤倫明

- 1学期 日本語構造論特論 I 文を構成する単位について

- 1 学期 日本語変異論研究演習Ⅰ 国語史・方言研究の諸問題
- 1 学期 日本語変異論研究演習Ⅲ 国語史・方言研究の諸問題
- 2 学期 日本語変異論研究演習Ⅱ 現代語研究の諸問題
- 2 学期 日本語変異論研究演習Ⅳ 現代日本語研究の諸問題
- 1 学期 日本語構造論講読 近世言語論の講読（継続）
- 通年 課題研究

小林隆

- 1 学期 日本語構造論研究演習 方言調査法
- 1 学期 日本語変異論研究演習Ⅰ 国語史・方言研究の諸問題
- 1 学期 日本語変異論研究演習Ⅲ 国語史・方言研究の諸問題
- 2 学期 日本語変異論特論Ⅲ 方言学的日本語史研究
- 2 学期 日本語変異論研究演習Ⅱ 現代語研究の諸問題
- 2 学期 日本語変異論研究演習Ⅳ 現代日本語研究の諸問題
- 通年 課題研究

大木一夫

- 1 学期 日本語変異論研究演習Ⅰ 国語史・方言研究の諸問題
- 1 学期 日本語変異論研究演習Ⅲ 国語史・方言研究の諸問題
- 2 学期 日本語変異論研究演習Ⅱ 現代語研究の諸問題
- 2 学期 日本語変異論研究演習Ⅳ 現代語研究の諸問題
- 1 学期 日本語変異論特論Ⅱ 日本語文法研究
- 2 学期 日本語変異論講読 文法形式成立史の研究
- 通年 課題研究

甲田直美

- 1 学期 日本語変異論研究演習Ⅰ 国語史・方言研究の諸問題
- 1 学期 日本語変異論研究演習Ⅲ 国語史・方言研究の諸問題
- 1 学期 日本語構造論研究演習Ⅱ 文章・談話の構造
- 2 学期 日本語変異論研究演習Ⅱ 現代語研究の諸問題
- 2 学期 日本語変異論研究演習Ⅳ 現代語研究の諸問題
- 2 学期 日本語構造論特論Ⅱ 文章・談話の構造論
- 通年 課題研究

2 学部授業担当

斎藤倫明

- 第4セメスター 現代日本語学概論 日本語の文法と文法論
- 第5セメスター 現代日本語学各論 文を構成する単位について
- 第5セメスター 現代日本語学講読 近世言語論の講読（継続）

小林隆

- 第4セメスター 国語学概論 方言研究
- 第5セメスター 現代日本語学演習 方言調査法
- 第6セメスター 国語学各論 方言学的日本語史研究

大木一夫

- 第3セメスター 国語学概論 日本語史の方法
- 第5セメスター 国語学各論 日本語文法研究
- 第5セメスター 国語学講読 文献による日本語史研究入門
- 第6セメスター 国語学講読 文法形式成立史の研究

甲田直美

- 第3セメスター 現代日本語学概論 現代日本語学の諸問題
- 第4セメスター 現代日本語学概論 日常言語の分析
- 第5セメスター 現代日本語学演習 文章談話の構造
- 第6セメスター 現代日本語学各論 文章・談話の構造論

3 共通科目・全学科目授業担当

小林隆

人文社会科学総合「研究と実践の倫理」 聴き取り調査の実践と倫理の諸問題

甲田直美

第2セメスター 言語学 「言語と理解」

(2) 他大学への出講 (2010～2015 年度)

斎藤倫明

宮城学院女子大学非常勤講師 2010～2014 年度

台湾南台科技大学非常勤講師 2010 年度

北京日本学研究センター派遣教授 2011 年度

小林隆

宮城学院女子大学非常勤講師 2010～2014 年度

群馬県立女子大学非常勤講師 2010～2014 年度

尚絅学院大学非常勤講師 2010～2013 年度

大木一夫

宮城学院女子大学非常勤講師 2010 年度

中国河南師範大学非常勤講師 2011 年度

岩手大学非常勤講師 2013 年度

宮城学院女子大学非常勤講師 2015 年度